発行日：令和元年9月22日（火）　発行元：なごや生物多様性センター

生物多様性しんぶん

森林保全体験から生物多様性を学ぶバスツアーを開催

令和元年9月21日（土）、なごや生物多様性センターは「森林保全体験から生物多様性を学ぶバスツアー」を開催。市民公募の子ども16名とその保護者ら40名が参加し、岐阜県下呂市にある岐阜大学附属位山（くらいやま）演習林での森林体験を通じ、森林が持つ機能や重要性を学びました。

森でしかできない貴重な体験をたっぷり

暮らしを支える大切な水

【講師紹介】
伊藤栄一さん
（特定非営利活動法人
森のなりわい研究所）

森に関わるあらゆることに対応できる「田舎のシンクタンク」を目指してさまざまな活動を行っている「森のなりわい研究所」の代表。森に関する知識が豊富で、「やまんじ隊長」と呼ばれ、子どもたちからも大人気。

水源を見学

一行は、山の幸たっぷりの弁当を食べて腹ごしらえした後、森林体験に出発。

最初に近くの集落の水道資源となっている小さなダムを見学しました。

雨水が、やがて川に流れ込み、最後は各家庭の水道水になるということを学びました。

最初の1滴

途中、一見何もない所で、伊藤さんは足を止めました。よく見ると、葉っぱから水のしずくがポタポタと垂れています。

実は、このほんの小さな1滴の水が集まって1筋の流れとなり、川へと注ぎ込んでいるのです。その流れは山から海へと続いています。

ツアー日程

08:00　生物多様性センター　発
11:40　岐阜大学附属位山演習林　着
　　昼食
13:00　森林体験スタート
15:20　ストラップ作り
16:00　岐阜大学附属位山演習林　発
19:00　生物多様性センター　着

写真の男の子は何を覗いているのでしょうか？

答えはブルーメライスと呼ばれる、木の高さを測る時に使う道具です。やまんじ隊長に教わって、実際に木の高さを測ってみました。

街中では決してできない貴重な体験となりました。

冬イチゴ摘み

山の中を散策していると、小さな冬イチゴの実を発見。

摘んでそのまま食べてみると…。

冬イチゴは酸っぱく、甘く、おいしかったようです！

どんな香り？

クロモジの葉をもいで臭いをかいでみると・・・

それは芳香剤のようないい香りでした。

ストラップ作り

ツアーの思い出にクロモジなどの茎を使って、世界にひとつしかないストラップを作りました。

クイズ 森のふしぎ？

参加者の皆さんが森で見かけた不思議をクイズにしました。（答えは下欄参照）

Q1

木肌がカサカサになった杉の木を発見しました。ある動物の仕業ですがその動物とは？

Q2

幹に大きな亀裂の入った杉の木がありました。どうして亀裂が入ってしまったのでしょうか？

ツアーを終えて

参加者のみなさんが森のことや水のことについての関心が高く、リアクションも良かったので、非常にうれしく思いました。普段からよく訪れている森ですが、こうしてみなさんにお話をしながら巡ると、改めて気付かされることも多く、私自身にとって有意義な時間となりました。とくに子どもたちには、今日学んだことや発見したことを、いつか何かの機会で思い出してもらいたいと思います。

参加者の声

- 自然と触れ合える、良い機会となりました
- 伊藤先生の話が分かりやすく、子どもも興味を持って聴いていた
- 森林や環境への興味がさらに深まった
- 水源を実際に見ることができてよかった
- 通常では入れない森林で貴重な体験をすることができた

クイズの答え　A1＝ムササビかモモンガが木に登ったためにできた。　A2＝木が凍ったために亀裂が入った。